国語

4年　組分③

解答

1　1 健康　2 挙手　3 天候　4 連帯　5 敗れる
　6 唱える　7 思案　8 発芽　9 省く　10 記念

2　問一　1 **ウ**　2 **オ**　3 **エ**　問二　1 **指**　2 **細心**　3 **空**　4 **感心**
　問三　1 **エ**　2 **イ**　3 **ウ**

3　問一　A **エ**　B **イ**
　問二　1 **よく目立つ赤色**
　　2 **野生生物が、人間の活動によって、絶滅の危機に瀕している状況を一般の人に知らせる目的。**
　問三 **イ**　問四　1 **管理**　2 **コンクリートの壁**　3 **生息地**
　問五 **人類が生き**　問六 **人間のく～せるのか**（くんで）
　問七 **イ・エ**（くんで不順可）　問八 **エ**

4　問一　A **ウ**　B **ア**　C **エ**　問二 **ウ**
　問三 **元気だった敬太くんのおばあさんが、急に亡くなったこと。**
　問四　Ⅰ **エ**　Ⅱ **ア**　Ⅲ **イ**　Ⅳ **ウ**（4つくんで）
　問五 **ア**　問六 **ウ**　問七 **イ**　問八 **エ**　問九　1 **イ**　2 **エ**

解説

3　出典は、小林朋道「小林先生に学ぶ動物行動学 ―攻撃するシマリス、子育てするタヌキ」〈少年写真新聞社〉。

問一　A…空欄の前で「日本のレッドデータブックには」「いくらでも見られた動物たちが、たくさんあげられて」（7・8行め）いるとあり、後では「たくさんの種類の動物が、激減していった」（9行め）と言いかえているので、「つまり」。B…空欄の前では「管理に手間がかからないようにするため」（20行め）、後では「水の氾濫を防ぐため」（20行め）と、「田んぼの水路や河川の岸をコンクリートの壁でおおった」（20・21行め）目的を並べて挙げているので、「あるいは」があてはまります。

問二　1…6行めに「だからレッドデータブックとよばれているのです」とあるので、「だから」の前にその理由が述べられているとわかります。「表紙がよく目立つ赤色」だから、こう呼ばれるのですね。2…5行めに「その状況を一般の人に知らせる目的でつくられた」とありますので、ここを解答の中心にします。次に「その状況」が指す内容を確かめると、直前に「野生生物が今、人間の活動によって、生息地を失い、個体数が減少し、生物によっては絶滅の危機に瀕しています」（4・5行め）とあるので、この部分を「その状況」のところにもどしてまとめましょう。

問三　「イモリ釣り」のエピソードは、「動物が大すきだった」筆者が「イモリをつかまえたり、イモリにいろいろなちょっかいを出したりしてあそんで」（12・13行め）いた、つまりレッドデータブックにあげられている「アカハライモリ」が身近にたくさんいたことの具体例です。

問四　身近にたくさんいたはずのイモリが見つけにくくなってしまったのは、イモリの生息地である「田んぼの水路」や「河川の岸」を、管理の手間を省き氾濫を防ぐために「コンクリートの壁」（21行め）でおおい「イモリの生息地を奪って」（21行め）きたからです。

問五　まず「そういった生物たち」が何を指しているかを確認しましょう。傍線部直前にある「イモリ」は「私たちのごく身近にいたたくさんの種類の動物」（８・９行め）、すなわち「野生生物」（３行め）の代表です。そこで、「野生生物が存在してこそ、人間も生きていける」という内容が述べられているところを傍線部より前からさがすと、「人類が生きていくためには、野生生物は、なくてはならない存在です。」（３・４行め）の一文が見つかります。

問六　傍線部直前の⑥段落を見ると、最後に「課題になってきた」とあります。課題の内容は、この一文に書かれていました。

問七　「樋門前水場」は、絶滅危惧種である「動物たちが生息できる環境」（33行め）、つまり「浅くて、流れがゆるやかで、底に枯れ葉などが堆積した水場」（35行め）です。

問八　設問にある通り、三つの内容に分けてみましょう。「レッドデータブック」→①～③段落、「かつての日本の状況（アカハライモリはどこにでもいた）」→④・⑤段落、「筆者の現在の活動（アカハライモリの研究）」→⑥～⑩段落。

④　出典は、田部智子「いい子じゃないもん」〈福音館書店 刊〉。

問一　A…「うちの布団」（５行め）に寝て安心したので「ほっと」。B…親しくしていた人が急に亡くなったことを悲しむ都をなぐさめようと、お母さんがやさしく手を置く様子なので「そっと」。C…「人は、死んじゃうんだよね」（41行め）という都の言葉にお母さんが反応する様子なので「ぴくっと」。

問二　お母さんの言動を丁寧に見ましょう。「首をふってわたしの横に寝そべった」（９・10行め）→ア。「ごめんね、あたし、気づいてやれなかった」（16行め）→イ。「びっくりしたよね」（30行め）→エ。

問三　都は、「あんなに元気だった」（38行め）「敬太くんのおばあさん」（27行め）が、急に「亡くなった」（29行め）ことに胸を痛めているのです。

問四　Ⅰ…「元気、……だった」（36行め）という都の言葉を受けて、お母さんが「そうだねえ、元気だったのにね」と返します→エ。Ⅱ・Ⅲ…人はいつか死ぬ、という都の言葉に対して、お母さんが「うん、死ぬね」（43行め）と答えます。死について思いめぐらしている都は、まず「お母さん」が死んでしまい、次に「わたし」が死ぬんだと改めて認識します→ア・イ。Ⅳ…死をこわがる都に、お母さんは自分の体験を話します。それを聞いた都が聞き返します→ウ。

問五　死をこわがって泣く都を、「お母さんはこまったように」（49行め）見つめます。「お母さんはあおむけになって天井をにらんで」（56・57行め）、死ぬのがこわいという気持ちがうすれたのはなぜなのかを「いっしょうけんめい考えて」（72・73行め）いるようです。

問六　「更衣室で」泣くということは、その姿は見せたくない、という気持ちの表れと考えられます。おばあさんの死を悲しみながら、施設の職員として周囲に気づかったのでしょう。

問七　離婚した都のお父さんの、若いころの思い出を話している様子です。

問八　「だいじだと思わなきゃ、結婚なんかしなかった」（132行め）、「あんたの半分はあの人でできてるんだから、その意味じゃ、今でもだいじな人」（134～136行め）というお母さんの言葉を聞いて、都はお母さんにとってお父さんが「だいじな人」だったことを確信します。

問九　1「さっきみたいにつらい涙」は、文章前半の、都が敬太くんのおばあさんの死をきっかけに、人の死について考え、こわくなって流した涙です。一方、2「こんどの涙」は「あたしにとっては、あんたがいちばんだいじ」（144・145行め）というお母さんの言葉から愛を感じ、うれしくて流した涙です。「お母さん、大好き」（149行め）という都の言葉には、心から幸せな気持ちがあふれていますね。